

あいの実 小平通信

～あんず・りんご・かりん～



待ちに待った桜の花もようやく満開を迎え、まさに春本番というところでしょうか。

4月に東京で桜が満開になるのは2017年以来7年ぶりとのこと。確かに最近は卒業式に桜、というイメージが強いように思います。2017年といえば、ちょうどこの春小学校へ入学する子どもたちが生まれた年です。桜吹雪の中で広い世界へ一歩踏み出す姿は、心からエールを送りたくになります。

あいの実小平は早5年目を迎えました。新年度になり、新しいご利用者も増えました。また、この4月からあいの樹の新しい生活介護事業所「あいの実小平西町（クラス名：らいむ）」が小川西町に開所しました。

放課後等デイ「りんご」・「ぷらむ」を卒業したご利用者、「かりん」から移られたご利用者、彼らと顔なじみのスタッフもあり、和気あいあいとスタートしているようです。

今後、事業所間での交流も企画していきたいと思っています。

また4月は毎年、法人全体での「虐待防止委員会」を開催しています。まず各事業所ごとに事前に虐待防止研修、身体拘束に関する研修、事例報告会を行います。事例報告会では、明らかな虐待ではなくとも「これって？・・・」と気にかかることをフランクに話し合っています。

報告会の内容は「委員会」に上げられ全体で共有をしながら、さらに全員に周知徹底しています。

日ごろの業務を見直し意識を高め、虐待の起らない環境を作ることが、ご利用者ひとりひとりの尊厳を守ることに繋がっていきます。

少しでも気にかかることがありましたら遠慮なく各事業所の管理者へお話しください。



職員
コラム

おはなしの実

障がい通所かりんで働いている、支援員の信澤(のぶさわ)勇太郎です。早いものでこちらに勤め始めて丸4年が経ちました。私事で大変恐縮なのですが、昨年3月に結婚いたしました。

「自分に無いものを持っている人に惹かれる」ことを心理学的に「相補性の法則」というらしいのですが、まさにその通りだなと思う出来事があったので1つ紹介させていただきます。

付き合いの間もないころ、彼女が玉川上水沿いを散歩中に、弱ったクワガタがいたので、「可哀想だから一晩うちで面倒見てあげよう」と、手でヒョイと拾い上げて家まで連れて帰り、ゼリーなどをあげてお世話をしたそうです。翌日元気になったので、2人で同じ場所に逃がしに行きました。私はどちらかと言えば虫は苦手な方なので、子供のようにキューちゃん（クワガタの名前）のお世話をする純粋な彼女の姿を見て、「自分には無い感覚を持っている人だな。でもそんなところも素晴らしいな。」と思ったものです。

「相補性」とは反対に、「自分と似ているから好き」ということを、「類似性の法則」といいます。妻も私と似ていて、マイペースでおっとりとした面があります。（自分で言うのも変ですが...）お絵描きやゲームや動物が好きという、趣味や趣向などもなんとなく似ています。自分にない特質を素晴らしいと思い、自分と似ていると近づきやすく感じる。結婚生活はもちろん、友達や家族、職場など人間関係全てにおいて当てはまることですね。

というわけで、「あいの実」の皆さん（利用者さんも職員さんも）の、「自分にないところ」や「自分と似ているところ」をこれからも探していきたいと思っています！

かりん生活支援員 信澤 勇太郎